

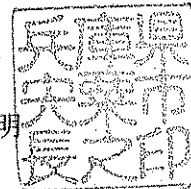


宍秘広第129号

平成19年5月8日

国土交通省 道路局長 様

兵庫県宍粟市長 白谷 敏 明



中期的な計画の作成にあたっての意見について

この度、国土交通省にあっては、本年度中に今後の具体的な道路整備の姿を示した中期的な計画を作成されるにあたって幅広い意見徴収が行われているところですが、本件につきまして、兵庫県の北西部に位置する中山間地域であるとともに、過疎化と高齢化の進行が著しく、さらには交通事情としては鉄軌道がなく、唯一、道路交通に生活基盤の全てを依存している宍粟市の立場から意見を申し上げさせていただきます。

記

日本の産業・経済の発展の源は道路施策にあると言っても過言でないと考えております。

しかしながら、これまで経済を重んじてきた結果、都市への集中・集約化が進み、地方にあっては過疎化対策が大きな課題となってきました。

一方、少子化とともに総人口が減少傾向に転じた中で、世界に誇る長寿国である日本の大きな課題の一つとして「高齢化」が掲げられますが、これは、必然的にデスクワークが困難となる高齢者が増加することとなります。

これからの国づくり、ひいては地域づくりを考えると、この高齢者が有する人的資源の活用は重要な取り組みであり、望ましい地産・地消の生活圏を確立するためには、今日のような首都圏への一極集中ではなく、地域に多くの自立拠点が確立できるような交通・道路網の整備が必要であると考えます。

したがって、中長期的な計画の策定にあたっては、国策として自立した地域拠点づくりを実現するための取り組みを盛り込んだ内容として作業を進めていただくよう申し上げます。

具体的に宍粟市に関する意見としては、

「重点化を進める上で特に優先度の高い政策」として

①国際競争力と地域の自立と競争力強化の観点から

兵庫県、特に宍粟市をはじめとする兵庫県北西部地域は、優良な国産木材の産地となっております。

このような状況の下、兵庫県においては県産木材の供給センターを県内に1箇所整備することにより、県産木材、ひいては県内の林業振興を図ろうとされているところですが、本市においても県と同様に市内の林業振興を目指した「林業再生」に取り組んでいる中で県が進められている県産木材供給センターの誘致を目指しており、センター整備に向けた基盤づくりに取り組んでいるところです。

そして、当センターが誘致・整備された後は、本市が県産木材等の供給拠点となり、県内はもとより、関西一円、さらには大きな経済成長を遂げている中国をはじめとする東アジア地域への木材供給拠点としての役割を果たすものと考えており、国際競争力を確立する大きな役割も果たすものと考えております。

一方、この木材供給施設の機能・役割を支える事項として、各地からの素材搬入と製品出荷に係る物流を円滑に行うための流通ルートの確保が重要なポイントとなる中で、本市を縦断する国道29号と、本市北部の山間部を横断する国道429号は当該流通ルートとして、最重要な役割を担うものと考えております。

しかしながら、その道路事情は、国道29号においては中国自動車道山崎インターチェンジ付近において交通渋滞が慢性的に発生し、一方、国道429号においてはその多くが山間部を通過していることから狭隘かつ急峻な路線となっており、両国道とも木材流通ルートの確保を図る上で早急な交差点改良、拡幅改良、バイパス整備、トンネル整備等が必要であると考えますので、これらの事業を最優先施策として取り組まれるよう申し上げます。

②安全・安心の確保の観点から

宍粟市については、兵庫県南東部から岡山県東部にかけて分布する「国内においてもマグニチュード7以上の地震の発生する確立は高いグループに分類される。」とも言われている山崎断層帯が横断しており、地震発生に伴う被害を最小限に抑える取り組みが重要な課題となっております。

このような中、阪神・淡路大震災の経験から、大規模な災害発生時における広域連携による救助応援体制の確立と緊急物資援助ルートの確保が一層重要なものとなりましたが、本市においても「宍粟市地域防災計画」を策定する中で、自力による対応が困難な場合には自衛隊をはじめ県・他市町への応援要請や全国のボランティアへの要請を行うことと定めたところです。

そして、この応援要請に基づき本市へ派遣等される各団体職員等については、中国自動車道・国道29号・国道429号を主要道路として利用されると考えております。

一方、本市から他県・他市町の被災地への支援についても同様の利用を考えて

いるところであり、さらには地理的に瀬戸内海地域と日本海地域の中間位置にある本市については、その災害等発生事情によっては一つの地域防災援助拠点ともなりうる要件を有していることから、3道路の役割は重要なものであると考えております。

しかしながら、両国道とも災害支援道路としての役割を果たすための道路線形・幅員等が十分であるとは言えない状況となっていることから、災害時等における広域支援体制の整備を図るための早急な交差点改良、拡幅改良、バイパス整備、トンネル整備等が必要であると考えますので、これらの事業を最優先施策として取り組まれるよう申し上げます。

「効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと」として

①道路は、地域における重要な生活インフラであるとの観点から

これからの道路整備については、より効率化が求められることとなり、道路整備事業の事業採択等に伴う「費用対効果」についても一定の基準が設定され、道路財源の有効活用が図られることは、今後の中・長期的な道路政策を進める上で重要なことであると考えます。

そして、本市のような中山間地域の道路については、「交通量が少ない。従って、費用対効果が低い。」を要因に道路改良事業等が採択されないことが予想され、遅々として道路整備が進行しないことも考えられます。

しかしながら、自立を目指す地域においても道路の果たす役割は、地域産業の振興や災害時における緊急輸送道路、広域的な地域医療連携等を担う重要な生活インフラとなっていることから、地域の実情や将来的な貢献度等を勘案した「費用対効果」の判断とされるような柔軟な道路政策としていただくよう申し上げます。

「その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見」として

①既存道路の有効利用を図る観点から

本市を横断している「中国自動車道」の利用について、通行料（利用料）が高いとの意識から利用者（車）が少ない状況となっています。

京阪神地域から豊かな自然環境を背景とした観光地を多く有する本市をはじめとする兵庫県北西部地域への最短通行ルートは本自動車道を経由するものであることから、観光振興による自立した地域拠点づくりを図る観点からも、利便性の向上や他道路の渋滞緩和に繋がる利用料（料金）の低廉化について、実現に向けた取り組みを進められるよう申し上げます。